

第 2 章

街かどの歴史的景観資源を見てみよう

1 立地・構成パターンの紹介

- (1) 歴史的建造物の立地パターン 23
- (2) 樹木の構成パターン 24

2 実際に見てみよう

- (1) 歴史的建造物 25
- (2) 樹木 35

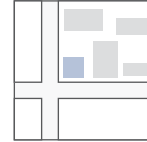
1 立地・構成パターンの紹介

札幌は、格子状の街路構成が基本となっています。これにより、立地や構成状況にいくつかのパターンが見られます。

(1) 歴史的建造物の立地パターン

① 角地に位置する場合

- 二つの道路が交差する角地に歴史的建造物があり、シンボリック的存在となっている。



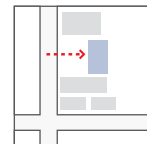
② 沿道に位置する場合

- 道路に沿って歴史的建造物があり、通りから街並みの一部として見えている。



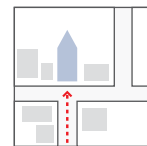
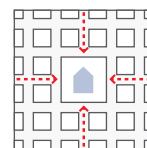
③ 道路から離れている場合

- 他の敷地や自身の前庭等により道路から奥まった（引きがある）場所に歴史的建造物があり、隣接する建物に挟まれる場合などは、通りから見えにくくなっている。



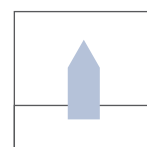
④ アイストップとなっている場合

- 通りの突き当たりに歴史的建造物があり、象徴的に見えている。



⑤ ランドマークとなっている場合

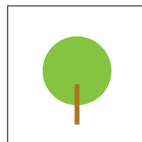
- その土地の目印や象徴となるような個性的な景観を生み出している。



(2) 樹木の構成パターン

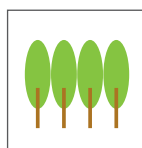
① 単木の場合

● 独立している樹木。



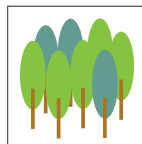
② 並木の場合

● 道路の両側などに、一定間隔で並んでいる樹木。



③ 群の場合

● 公園等のまとまりのあるみどりで、地域の景観を特徴づけている。



歴史的景観資源のみどころ

札幌の原風景を偲ばせる樹木

北大構内や植物園に今も大木が見られるハルニレ(エルム)は、豊富な地下水のある場所を好んで育成する性質があります。

豊平川扇状地の上に造られた札幌の街には、かつてたくさんのメム(湧泉)や小川がありました。そのような原風景を偲ばせる樹木といえるでしょう。

